

「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

4月17日に、全国学力・学習状況調査（調査科目：国語・算数・理科）が6年生を対象に全国で行われました。すでに都道府県や札幌市の結果が公表され、調査を受けた6年生には個人票を渡しました。

本校の結果につきましても、結果と改善の方向がまとまりましたので、公表いたします。なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解願います。

< 国語 >

本校の概要

【知識及び技能】

◆「言葉の特徴や使い方に
関する事項」の平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度である
が、やや下回っている。

◆「情報の扱い方に
関する事項」の平均正答率

⇒全国平均を下回っている。

◆「我が国の言語文化に
関する事項」の平均正答率

⇒全国平均をほぼ同程度である
が、やや上回っている。

【思考力、判断力、表現力等】

◆「話すこと・聞くこと」の
平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度である
が、やや下回っている。

◆「書くこと」の平均正答率

⇒全国平均を下回っている。

◆「読むこと」の平均正答率

⇒全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

「情報の扱いに関する事項」

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと

「書くこと」

- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること
- 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

「読むこと」

- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること

改善の方向

「情報の扱いに関する事項」

- 複雑な事柄を分解して捉えたり、多様な内容を要素ごとに分類したりする際に、短い語句で端的に表し、図で表しながら考えをまとめる学習活動の充実。

「書くこと」

- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える学習の充実。
- 文章を引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する学習活動の充実。
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する学習活動の充実。

「読むこと」

- 叙述を基に、書き手が、どのような事実を理由や事例として挙げているのかなどに着目させ、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する学習の充実。

< 算数 >

本校の概要

【学習指導要領の領域】

□「数と計算」の

平均正答率

⇒全国平均を下回っている

□「図形」の

平均正答率

⇒全国平均を下回っている

□「変化と関係」の

平均正答率

⇒全国平均を下回っている

□「変化と関係」の

平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている

□「データの活用」の

平均正答率

⇒全国平均を下回っている

今回の調査における課題

「数と計算」

- 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること

「図形」

- 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて作図すること。
- 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述すること

「測定」

- はかりの目盛りを読むこと

「変化と関係」

- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること。

改善の方向

「数と計算」

○分数の加法及び減法の学習を通して、異分母の分数の加法及び減法の計算をしたり、分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えたりする活動の充実。

「図形」

○図形の作図を通して、コンパスの有効な使い方を理解する活動の充実。

○平面図形の面積の学習を通して、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の求め方について理解する活動の充実。

「測定」

○身の回りのものの大きさについて単位を用いて表現する活動の充実。その際、示されたはかりの最小目盛りの大きさに着目することを大切にする。

「変化と関係」

○日常の事象について、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見だし、それらの数量の関係を把握して問題を解決する活動の充実。その際、二つの数量関係を表・式・言葉を用いて表現することが大切にする。

「令和 7 年度 全国学力・学習状況調査」の結果について（2 枚目）

< 理科 >

本校の概要

【学習指導要領の区分・領域】

□A「エネルギー」を柱とする
領域の

平均正答率

⇒全国平均を下回っている

□A「粒子」を柱とする領域の

平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度である
が、やや下回っているを下回っ
ている

□B「生命」を柱とする領域の

平均正答率

⇒全国平均を下回っている

□B「地球」を柱とする領域の

平均正答率

⇒全国平均とほぼ同程度である
が、やや下回っている

今回の調査における課題

「エネルギー」

- 乾電池のつなぎ方につ
いて、直列つなぎに関
する知識を身に付ける
こと

「生命」

- ハチマの花のつくりや受粉
についての知識を身に付け
ること
- 発芽するために必要な
条件について、実験の
条件を制御した解決の
方法を発想し、表現す
ること
- レタスの種子の発芽の
条件について、共通点
や違いを基に、新たな
問題を見いだして表現
すること

「粒子」

- 水の温まり方につい
て、問題に対するまと
めを導きだす際、解決
するための観察、実験
の方法が適切であった
か、表現すること
- 水が氷に変わる温度を根拠
に、オホーツク海の氷の面
積が減少した理由を予想
し、表現すること

改善の方向

「エネルギー」

○電流の働きについて、電流の大きさや向
きと乾電池につないだ物の様子を関係付け
て調べる活動の充実。

「生命」

○植物の体のつくりについて、観察や実験から理解
する活動の充実。
○植物の育ち方について、予想や仮説を立て、条件
を制御しながら解決方法を発想・表現する力を育
てる。
○発芽から成長、結実までの過程を、条件を変えて
調べる活動を行い、観察や実験の結果を比べて、
違いや共通点を整理し、条件の影響を考えたり、
一人一人が見いだした課題をノートにまとめたり
するなど、考えを表現する活動の充実。

「粒子」

○金属・水・空気の性質について、体積や状態変
化、熱の伝わり方と温度変化の関係を、観察や実
験を通して調べる活動の充実。その際、結果とそ
こから言えること（考察）を区別して整理し、よ
り妥当な考えを導けるよう指導する。また、子ど
もの表現を支えるための教師の関わりも工夫す
る。

～児童質問紙調査の結果から～

テスト内容のこと、学習意欲や学習環境、生活の様子について、質問を実施しています。その結果から、本校のいくつかの項目について、全国の結果と比べながらお知らせします。

学習面

○全国平均と比べ肯定的回答の割合が高いもの

- ・PC、タブレットなどのICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う。
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。
- ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- ・理科の授業の内容はよく分かる。
- ・理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、予想（仮説）を考えている。
- ・理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。

○全国平均と比べ肯定的な回答の割合が低いもの

- ・学習の中でPC・タブレットなどのICT 機器を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。
- ・算数の勉強が得意。
- ・算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている。
- ・理科の勉強が得意。
- ・理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できる。

生活面

○全国平均と比べ肯定的回答の割合が高いもの

- ・毎日決まった時刻に就寝している。
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う。
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。

○全国平均と比べ肯定的な回答の割合が低いもの

- ・自分にはよいところがある。
- ・人が困っているときは、進んで助けている。
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。

「自分にはよいところがある」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」項目についての割合が低いことから、「自己肯定感が低い」要因が考えられます。学習や日常体験で、学級の仲間に認められる機会を増やしていくこと、行事や異学年交流での達成感をもたせるなど、「できた！」「認められた！」という経験を積み重ねることを大切にしていきます。また、教師も子どもの自信につながる褒め方、関わり方をさらに考えていくように取り組んでいきます。

クロームブックの活用については、「プレゼンテーションの制作」「自分の意見を伝えること」「楽しく使うこと」では、肯定的な回答が多く見られました。一方で、「自分のペースで理解しながら学習すること」や「友達と考えを共有したり比べたりすること」については、肯定的な回答が比較的少ない傾向が見られました。今後は、学習でクロームブックを使う場面をより明確に示し、アプリの活用などを通して、自分で課題を見付け、自分で解決に向かう活動を充実させていきます。

学習に関する回答からは、授業中に課題に真剣に取り組んでいる様子がうかがえます。ただし、それが自分自身の学力の定着につながっているかについては、十分な実感を得られていない状況も見られます。今後は、学習の振り返りや復習を大切に、一人一人に確かな力が身に付くよう取り組んでいきます。